

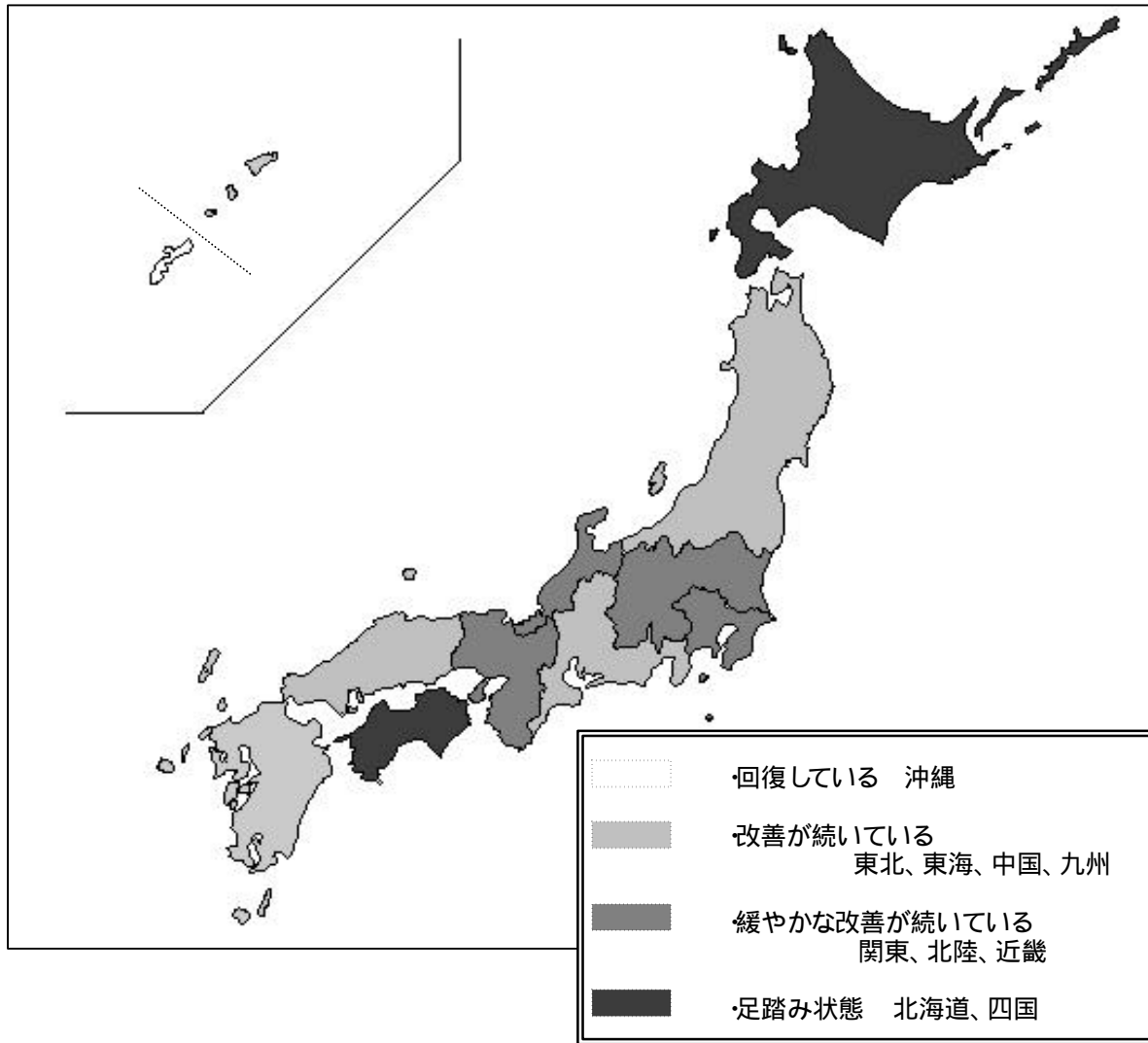
# 地 域 経 済 動 向

平成12年11月21日

経 済 企 画 庁 調 査 局

# 1. 地域経済の概況

## (1) 各地域の景況感



## (2) 前回調査からの比較

### 総括表現

各地域の表現	北海道	東北	関東 (北関東)	(南関東)	東海	北陸	近畿	中国	四国	九州	沖縄
回復している											
改善が強まっている											
改善が続いている											
緩やかな改善が続いている											
足踏み状態											

(備考) は、今回調査の判断。  
 は、前回調査の判断。 のない地域は、前回の判断を変更していない地域。

### 鉱工業生産

各地域の表現	北海道	東北	関東	(北関東)	(南関東)	東海	北陸	近畿	中国	四国	九州	沖縄
高水準で推移												
堅調に増加												
増加												
増加傾向												
緩やかに増加												
足踏み状態												

・沖縄は観光

### 個人消費

各地域の表現	北海道	東北	関東	(北関東)	(南関東)	東海	北陸	近畿	中国	四国	九州	沖縄
堅調												
おおむね横ばい												
やや弱含んでいる												
弱含んでいる												

### 設備投資

各地域の表現	北海道	東北	関東	(北関東)	(南関東)	東海	北陸	近畿	中国	四国	九州	沖縄
12年度計画は前年度実績を上回っている				-	-							
12年度計画は前年度実績を下回っている				-	-							

### 住宅建設

各地域の表現	北海道	東北	関東	(北関東)	(南関東)	東海	北陸	近畿	中国	四国	九州	沖縄
増加												
増加傾向												
横ばい												
緩やかに減少												
減少												

### 公共投資

各地域の表現	北海道	東北	関東	(北関東)	(南関東)	東海	北陸	近畿	中国	四国	九州	沖縄
前年を上回っている												
おおむね前年並み												
前年を下回っている												

### 雇用情勢

各地域の表現	北海道	東北	関東	(北関東)	(南関東)	東海	北陸	近畿	中国	四国	九州	沖縄
厳しい状況ながらやや改善												
有効求人倍率は上昇しているが、厳しい状況												
厳しい状況												

### ( 3 ) 今回調査の特色

最近の地域経済動向の特色をまとめると、以下のとおりである。

第一に、企業部門の自律的回復に向けた動きが強まっている。すなわち、多くの地域で、鉱工業生産が、IT関連業種及び設備投資関連業種を中心として引続き増加傾向にあり、また、企業の業況判断が改善傾向にあり、設備投資については、12年度計画が前年度実績を上回り、上方修正もされている。

第二に、しかしながら、家計部門の改善は遅れており、個人消費は、おおむね横ばい、または、地域によってはやや弱含んでいる。このことは、乗用車新規登録・届出台数は増加傾向にあるものの、大型小売店販売額は低調に推移しており、また、直近については景気ウォッチャー調査家計動向関連の現状判断DIが低下していることなどに示されている。

第三に、雇用情勢は、企業部門の改善を反映して求人動向等に改善の動きがみられる。ただし、多くの地域で失業率は高水準で推移するなど、依然として厳しい状況を脱しておらず、このことは、家計部門の改善が遅れる要因ともなっている。

また、第四に、企業倒産の地域経済への影響がやや増大している。企業倒産件数は本年初来各地域において前年比で高い伸びを示している。これに加えて、最近は、生命保険会社の破たんやそごうの再建計画による閉店等の影響も加わり、企業のリストラの動きともあいまって、地域によっては、雇用への影響も見られるとともに、消費マインドへの影響も懸念されている。

各地域の景況を前回調査と比べると、「改善が強まっている」としていた中国では、鉱工業生産は化学や自動車に輸出鈍化の影響がみられ伸びが鈍化していることから、「改善が続いている」とやや下方修正した。また、「緩やかな改善が続いている」としていた四国では、鉱工業生産が足踏み状態となり、また、企業倒産の増加もあって雇用情勢が厳しい状況にあることから、「足踏み状態」にあるとして下方修正した。その他の地域では、鉱工業生産が増加傾向にあり、雇用が厳しいながらもやや改善がみられることから、前回同様の評価とした。

全体としてみれば、「緩やかな改善が続いている」と言える。

なお、9月には東海豪雨が、10月には鳥取県西部地震が発生した。東海豪雨では、生産活動の遅れや小売店舗への浸水などの影響があった。鳥取県西部地震では、企業の生産活動への影響は大きくなかったが、農林水産業、観光業に影響があり、消費マインドの低下を指摘する声もある。

## 2. 地域経済の動向

### (1) 北海道

北海道地域では、企業部門を中心に自立的回復に向けた動きがみられるものの、景気は足踏み状態である。これは、鉱工業生産が緩やかに増加し、設備投資が製造業を中心に増加しているものの、個人消費が弱含んでおり、公共投資が前年を下回っていること等の影響から業況感が悪化しているからである。

～近年、外国人観光客（平成11年度：約20万人）が順調に増加しているなかで、「北海道ブーム」の台湾に着目し台湾観光客を北海道へ誘致する動きが広がっている～

#### 1. 生産及び企業動向

##### (1) 第一次産業 「横ばい」

・生乳生産（前年同月比）は、8月0.3%増、9月1.0%減とおおむね横ばいであった。水産業（主要10港、前年同月比）は、9月は水揚量では0.2%減となったが、サンマの魚価高騰などから金額では3.1%増となった。

##### (2) 鉱工業生産指数 「緩やかに増加」

（季節調整値、前期（月）比増減率、単位：%）

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9(P)	12年7月	8	9(P)
鉱工業生産指数	0.6	1.2	0.4	0.7	1.0	6.7	3.2

（備考）(P)は速報値。

#### <コメント>

・食料品・たばこは、牛乳では食中毒事故の影響なども少なく、ビール・発泡酒では前年同様の猛暑効果によりほぼ前年並みの生産となっている。パルプ・紙は、新聞広告やチラシ、パンフレットなどの増加などから底固く推移している。窯業・土石は、公共工事の減少等から低調に推移している。金属製品は、公共工事の減少等から鉄骨が減少している。電気機械は、IT関連の需要が好調であることから増加している。

##### (3) 観光 「持ち直しの兆し」

・有珠山噴火などの影響によって4月以降減少していた来道客数（前年同月比）は、ツアー需要の回復などから8月10.3%減の後、9月2.6%増となり持ち直しの兆しがみられる。

##### (4) 企業動向 「業況判断は「悪い」超幅が拡大」

企業短期経済観測調査 [業況判断DI]

（「良い」 - 「悪い」回答社数構成比、単位：%ポイント）

調査月	12年3月	6月	9月	12月(予測)
全産業	22	26	28	24
製造業	20	18	16	11
非製造業	23	29	32	29

景気ウォッチャー調査 [企業動向関連]

#### <現状判断理由>

・ITの裾野が広がっていない（通信業）引き合いが低調である（その他サービス業 [建設機械リース]）などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、建設業が苦しい状況にある（金融業）などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。

## 2. 需要の動向

### (1) 個人消費 「弱含んでいる」

大型小売店販売額 (店舗調整済、前年同期(月)比増減率、単位：%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年7月	8	9
大型小売店	5.8	4.9	5.7	5.6	4.6	6.6	5.6
百貨店	4.6	2.9	5.6	4.1	4.5	5.8	1.9
スーパー	6.7	6.5	5.8	6.7	4.6	7.2	8.4
コンビニエンス・ストア	1.4	2.8	3.3	3.8	1.1	5.7	4.6

#### <コメント>

百貨店：プロ野球優勝セールなどにより一部で動きがあったものの、主力の衣料品で残暑の影響などから秋物の動きが鈍かったことやオリンピックのテレビ観戦の影響などで来客数が減少したことから、低調である。

スーパー：主力の飲食料品は生鮮品の市況安により前年を下回っており、衣料品や身の回り品は専門店にシフトしていることなどから、低調である。

乗用車新規登録・届出台数 (前年同期(月)比増減率、単位：%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年7月	8	9
乗用車新規登録・届出台数	4.2	0.1	2.3	1.8	2.3	1.8	3.6

景気ウォッチャー調査 [家計動向関連D I]

	12年5月	6	7	8	9	10
現状判断	39.6	49.0	47.5	43.3	42.5	42.6(41.2)
先行き判断	48.3	54.9	48.9	44.4	45.4	41.8(42.3)

(備考)( )は9月以前との接続値。なお、巻末主要指標(9)の備考を参照こと。

#### <現状判断理由>

- ・客単価が低下している(コンビニ)、利用客数が伸びない(タクシー運転手)などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、プロ野球優勝セールの効果はあるが、売上が増加していない(スーパー)などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。

### (2) 設備投資 「12年度計画は前年度実績を上回っている」

企業短期経済観測調査 [設備投資] (9月調査) (前年度比増減率、単位：%)

	11年度実績	12年度計画
全産業	15.7	16.0 (9.2)
製造業	35.7	23.0 (21.8)
非製造業	0.8	13.3 (4.5)

(備考)( )は前回(6月)調査比修正率。

### (3) 住宅建設 「緩やかに減少」 (前年同期(月)比増減率、単位：%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年7月	8	9
新設住宅着工戸数	22.2	8.4	2.6	1.9	10.1	2.1	6.4

#### <コメント>

- ・持家は持ち直しているものの、分譲などが減少していることから、緩やかに減少している。

### (4) 公共投資 「前年を下回っている」 (前年同期(月)比増減率、単位：%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年8月	9	10
公共工事請負金額	8.2	14.8	10.0	10.2	5.0	1.8	1.5

### 3. 雇用情勢等

#### (1) 雇用情勢 「有効求人倍率は上昇しているが、厳しい状況」

有効求人倍率及び完全失業率

(単位：倍、%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年7月	8	9
有効求人倍率(季節調整値)	0.43	0.45	0.43	0.52	0.52	0.52	0.53
完全失業率(原数値)	5.3	6.5	5.8	4.7	-	-	-

#### <コメント>

- ・有効求人倍率は求人増から緩やかに上昇している。完全失業率は前年同期(4.8%)を下回っているものの依然として高い水準にある。

景気ウォッチャー調査 [ 雇用関連 ]

#### <現状判断理由>

- ・求人が増加している(職業安定所)などの理由から「やや良くなっている」とする回答があり、採用まで時間がかかる(求人情報誌製作会社)、小売関連の求人数が伸び悩んでいる(求人情報誌製作会社)などの理由から「変わらない」とする回答もみられた。

#### (2) 企業倒産 「件数は増加」

(前年同期(月)比増減率、単位：%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年8月	9	10
倒産件数	5.1	35.9	21.6	31.9	1.3	10.8	6.7
負債総額	54.8	76.0	23.6	55.9	89.5	95.4	432.0

#### <コメント>

- ・公共工事の減少などから建設業の倒産が続いている。

景気ウォッチャー調査 [ 合計DI ]

	12年5月	6	7	8	9	10
現状判断	43.3	49.5	49.7	45.5	46.2	46.1(44.4)
先行き判断	50.0	55.5	50.5	47.2	49.0	44.1(44.7)

## (2) 東北

東北地域では、企業部門を中心に自立的回復に向けた動きが継続しており、景気は改善が続いている。これは、個人消費はやや弱含んでいるものの、鉱工業生産は引き続き増加し、設備投資も製造業を中心に増加しており、また、雇用情勢も厳しい状況ながらやや改善しているからである。

～設備投資では、電気機械が一段の能力増強投資を行うなど11年度に引き続き増加の計画となっている～

### 1. 生産及び企業動向

#### (1) 鉱工業生産指数 「増加」 (季節調整値、前期(月)比増減率、単位：%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9(P)	12年7月	8	9(P)
鉱工業生産指数	0.8	4.6	1.8	4.1	0.2	8.7	5.2

(備考)(P)は速報値。

#### <コメント>

- ・全体の生産水準は8月に過去最高となったが、9月はその反動からやや減少している。主力の電気機械は、パソコンや携帯電話関連が依然として好調で、両製品に共通する一部部品が不足気味である。食料品・たばこは一進一退で推移している。一般機械は、金型などを中心に緩やかに増加している。窯業・土石は、電子部品向けファインセラミックスの高操業が続いている。

#### (2) 企業動向 「業況判断は「悪い」超幅が縮小」

##### 企業短期経済観測調査 [業況判断DI] (「良い」-「悪い」回答社数構成比、単位：%ポイント)

調査月	12年3月	6月	9月	12月(予測)
全産業	21	23	17	14
製造業	11	12	1	3
非製造業	28	29	31	25

(備考)電力を除く。

##### 景気ウォッチャー調査 [企業動向関連]

#### <現状判断理由>

- ・設備投資に変化がない(金融業)、底値横ばいが続いている(木材木製品製造業)などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、受注残を抱え忙しくなっている(電気機械器具製造業)などの理由から「やや良くなっている」とする回答もみられた。

### 2. 需要の動向

#### (1) 個人消費 「やや弱含んでいる」

##### 大型小売店販売額 (店舗調整済、前年同期(月)比増減率、単位：%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年7月	8	9
大型小売店	5.0	3.8	4.9	5.5	4.4	5.9	6.2
百貨店	3.7	2.8	3.2	2.8	2.1	3.7	2.7
スーパー	5.7	4.3	5.8	6.8	5.7	6.9	7.9
コンビニエンス・ストア	1.3	0.9	2.1	2.4	0.2	3.5	3.5

#### <コメント>

- 百貨店：婦人靴などで動きがみられたが、残暑の影響で衣料品を中心に秋物の出足が遅れた。直近では、プロ野球優勝セールの効果が出た店舗も見受けられた。
- スーパー：衣料品や家庭用品が前年を大きく下回っている。また、主力の飲食料品は低価格化傾向にあり厳しい状況が続いている。

##### 乗用車新規登録・届出台数 (前年同期比(月)増減率、単位：%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年7月	8	9
乗用車新規登録・届出台数	6.1	1.8	4.2	0.1	2.5	2.1	3.4

##### 景気ウォッチャー調査 [家計動向関連DI]

	12年5月	6	7	8	9	10
現状判断	46.5	45.7	42.6	44.9	45.1	44.9(41.3)
先行き判断	51.8	49.6	46.3	47.4	49.6	51.0(51.6)

(備考)( )は9月以前との接続値。なお、巻末主要指標(9)の備考を参照のこと。



<現状判断理由>

- ・来客数はあるが単価は低下している（百貨店、スーパー、観光型ホテル、観光名所）などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、来客数、単価ともに厳しい（スーパー、住関連専門店、遊園地）などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。

(2) 設備投資 「12年度計画は製造業を中心に前年度実績を上回っている」

企業短期経済観測調査 [ 設備投資 ] ( 9月調査 ) ( 前年度比増減率、単位：％)

	11年度実績	12年度計画
全産業	4.5	7.1 ( 7.0 )
製造業	9.2	20.6 ( 10.1 )
非製造業	0.8	9.7 ( 2.2 )

(備考)( )は前回(6月)調査比修正率。

<コメント>

- ・非製造業は、情報通信等の大型投資の一巡から前年度実績を下回っているが、製造業は、電気機械が一段の能力増強投資を行うなど11年度に引き続き増加しており、全産業では前年度を上回っている。

(3) 住宅建設 「減少」

(前年同期(月)比増減率、単位：％)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年7月	8	9
新設住宅着工戸数	5.7	2.6	10.8	1.8	5.7	5.2	6.3

<コメント>

- ・ウェイトの高い持家、貸家で減少が続いていたが、9月は前年を上回った。

(4) 公共投資 「前年を下回っている」

(前年同期(月)比増減率、単位：％)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年8月	9	10
公共工事請負金額	11.6	14.8	21.5	11.9	13.4	3.6	13.7

3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢 「厳しい状況ながらやや改善」

有効求人倍率及び完全失業率

(単位：倍、％)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年7月	8	9
有効求人倍率(季節調整値)	0.51	0.55	0.59	0.61	0.59	0.61	0.62
完全失業率(原数値)	4.0	5.0	4.2	4.2	-	-	-

<コメント>

- ・完全失業率は、前年同期(4.0%)を上回っており依然としてやや高い水準にある。有効求人倍率は求人増から緩やかに上昇している。

景気ウォッチャー調査 [ 雇用関連 ]

<現状判断理由>

- ・派遣や臨時社員の求人が多い(職業安定所) 新規求職者数が横ばい(職業安定所)などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、電気機械器具製造業を中心に求人が増えている(職業安定所)などの理由から「やや良くなっている」とする回答もみられた。

(2) 企業倒産 「件数は増加」

(前年同期(月)比増減率、単位：％)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年8月	9	10
倒産件数	8.5	50.0	16.7	33.7	35.2	8.4	27.3
負債金額	27.1	50.5	8.3	49.9	33.7	96.4	50.5

景気ウォッチャー調査 [ 合計DI ]

	12年5月	6	7	8	9	10
現状判断	50.8	48.2	46.0	48.1	48.2	47.8(44.7)
先行き判断	54.6	52.1	49.5	49.7	52.9	51.4(52.8)

### (3) 関東

関東地域では、企業部門を中心に自律的回復に向けた動きが継続しており、景気は緩やかな改善が続いている。これは、個人消費はおおむね横ばい状態にあるものの、雇用情勢は厳しい状況ながらやや改善しており、鉱工業生産も緩やかに増加しているからである。

北関東と南関東については、新設住宅着工戸数等で異なった動きがみられるものの、総じてみれば関東全体とほぼ同様の動きであることから、景気は緩やかな改善が続いている。

～10月は生命保険会社等の倒産により関東地域の倒産企業の負債総額が過去最大の8兆109億円となった～

#### 1. 生産及び企業動向

##### (1) 鉱工業生産指数 「緩やかに増加」 (季節調整値、前期(月)比増減率、単位：%)

	11年10～12月	12年1～3月	4～6	7～9(P)	12年7月	8	9(P)
鉱工業生産指数	0.7	3.2	0.5	1.9	3.0	9.5	5.6

(備考)(P)は速報値(以下同様)。

##### <コメント>

- ・電気機械は、パソコン、携帯電話関連を中心に、一般機械でも情報通信機器関連を中心に増加している。
- ・輸送機械は、自動車生産が東海地方での集中豪雨の影響等から一時的に低下したものの増加傾向にある。
- ・化学は増加しているものの、直近ではアジア向け輸出がやや弱含んでいる。

##### (2) 企業動向 「業況判断は「悪い」超幅が縮小」

##### 企業短期経済観測調査 [業況判断DI] (「良い」-「悪い」回答社数構成比、単位：%ポイント)

調査月	12年3月	6月	9月	12月(予測)
全産業	21	13	10	6
製造業	19	9	4	1
非製造業	22	17	14	10

#### 2. 需要の動向

##### (1) 個人消費 「おおむね横ばい」

##### 大型小売店販売額 (店舗調整済、前年同期(月)比増減率、単位：%)

	11年10～12月	12年1～3月	4～6	7～9	12年7月	8	9
大型小売店	4.6	3.1	4.5	5.0	5.2	5.5	4.2
百貨店	2.6	0.5	2.7	2.8	5.1	3.0	0.6
スーパー	6.7	5.6	6.2	7.0	5.4	7.4	8.3
コンビニエンス・ストア	0.5	1.8	1.8	0.4	1.9	0.8	2.5

##### <コメント>

百貨店：残暑や天候不順等の影響から秋物衣料の動きは鈍く、総じて低調であったものの、9月後半からは気温が低下したことに加え、閉店セールやプロ野球優勝セール等が好調だったことから、9月の百貨店販売額は7か月振りに前年を上回っている。

スーパー：猛暑の影響により主力の飲食料品に動きがみられたものの、一般野菜の相場安、衣料品や身の回り品の価格低下等が続いており、22か月連続して前年を下回っている。

##### 乗用車新規登録・届出台数 (前年同期(月)比増減率、単位：%)

	11年10～12月	12年1～3月	4～6	7～9	12年7月	8	9
乗用車新規登録・届出台数	4.2	1.2	4.3	0.9	0.3	8.1	2.3

##### 景気ウォッチャー調査 [家計動向関連DI]

	12年5月	6	7	8	9	10
現状判断	48.9	48.9	49.2	45.2	42.7	43.6(41.9)
先行き判断	54.5	51.9	50.4	50.0	50.8	49.1(49.2)

(備考)( )は9月以前との接続値。なお、巻末主要指標(9)の備考を参照のこと。

(2) 設備投資 「12年度計画は製造業で前年度実績を上回り、全産業では前年度実績を下回っている」  
 企業短期経済観測調査 [設備投資] (9月調査) (前年度比増減率、単位：%)

	11年度実績	12年度(計画)
全産業	7.3	3.0 ( 0.3)
製造業	21.3	13.2 ( 4.0)
非製造業	5.5	4.8 ( 0.2)

(備考)( )は前回(6月)調査比修正率。

(3) 住宅建設 「横ばい」 (前年同期(月)比増減率、単位：%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年7月	8	9
新設住宅着工戸数	4.0	11.4	6.5	0.0	3.6	2.5	6.1

<コメント>

・首都圏の堅調なマンション着工に支えられ分譲は増加しているものの、貸家、持家が減少していることから全体では横ばいとなった。

(4) 公共投資 「前年を下回っている」 (前年同期(月)比増減率、単位：%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年8月	9	10
公共工事請負金額	12.8	8.0	12.1	15.5	5.9	13.9	23.5

### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢 「厳しい状況ながらやや改善」

有効求人倍率及び完全失業率 (単位：倍、%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年7月	8	9
有効求人倍率(季節調整値)	0.49	0.53	0.59	0.65	0.64	0.66	0.66
完全失業率(原数値)	4.4	4.8	4.8	4.6	-	-	-

<コメント>

・完全失業率は、前年同期(4.8%)をやや下回ったが依然として高い水準となっている。しかし、有効求人倍率は求人増等から緩やかに上昇している。

(2) 企業倒産 「件数、負債総額ともに増加」 (前年同期(月)比増減率、単位：%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年8月	9	10
倒産件数	3.3	42.0	13.4	15.2	16.0	12.6	13.9
負債総額	42.2	61.1	6.8	162.5	145.7	121.8	2220.6

<コメント>

・10月は生命保険会社等の倒産により関東地域の倒産企業の負債総額が過去最大の8兆109億円となった。

### 景気ウォッチャー調査 [合計DI]

	12年5月	6	7	8	9	10
現状判断	50.3	50.0	50.3	47.1	47.3	47.9(46.9)
先行き判断	55.4	53.2	52.2	53.7	54.6	50.3(51.1)

## 北 関 東

### 1. 生産及び企業動向

#### (1) 鉱工業生産指数 「緩やかに増加」

- ・電気機械や一般機械は堅調に推移しており、輸送機械も持ち直しの動きがみられる。

#### (2) 企業動向

##### 景気ウォッチャー調査 [ 企業動向関連 ]

##### < 現状判断理由 >

- ・仕事が若干増えている（プラスチック製品製造業）、設備投資の中でも情報化投資が特に増加している（その他サービス業 [ 情報サービス ]）などの理由から「やや良くなっている」とする回答が多くみられた一方で、少し景気が良くなっている状態で変わらない（輸送業）などの理由から「変わらない」とする回答もみられた。

### 2. 需要の動向

#### (1) 個人消費 「おおむね横ばい」

##### 大型小売店販売額

( 店舗調整済、前年同期(月)比増減率、単位：%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9(P)	12年7月	8	9(P)
大型小売店	5.9	4.3	5.0	4.7	4.6	4.7	4.9
百貨店	3.3	1.9	3.4	3.6	4.2	3.4	2.9
スーパー	7.4	5.5	5.8	5.3	4.8	5.2	5.9

##### 乗用車新規登録・届出台数

( 前年同期(月)比増減率、単位：%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年7月	8	9
乗用車新規登録・届出台数	4.2	1.9	4.3	1.8	1.0	6.5	0.4

##### 景気ウォッチャー調査 [ 家計動向関連DI ]

	12年5月	6	7	8	9	10
現状判断	-	-	-	-	-	44.2
先行き判断	-	-	-	-	-	48.6

##### < 現状判断理由 >

- ・売上は変わらない(商店街) 客単価が低下しており、悪い状況で変わらない(衣料品専門店)などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、必需品以外の購入がない(コンビニ)などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。

#### (2) 住宅建設 「緩やかに減少」

( 前年同期(月)比増減率、単位：%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年7月	8	9
新設住宅着工戸数	2.4	1.3	12.0	6.1	12.1	7.0	0.9

##### < コメント >

- ・持家に持ち直しの動きがみられるものの、貸家、分譲が減少していることから全体でも減少傾向にある。

#### (3) 公共投資 「前年を下回っている」

( 前年同期(月)比増減率、単位：%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年8月	9	10
公共工事請負金額	5.3	10.9	11.1	19.1	12.4	18.9	26.6

### 3. 雇用情勢等

#### (1) 雇用情勢 「厳しい状況ながらやや改善」

有効求人倍率及び完全失業率

(単位：倍、%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年7月	8	9
有効求人倍率(季節調整値)	0.69	0.76	0.84	0.89	0.88	0.90	0.90
完全失業率(原数値)	3.8	4.0	3.7	3.5	-	-	-

#### <コメント>

- ・有効求人倍率は求人増等から緩やかに上昇しており、完全失業率は前年同期(3.5%)と同水準となっている。

#### 景気ウォッチャー調査 [雇用関連]

##### <現状判断理由>

- ・派遣需要が着実に増えている(人材派遣会社) 大企業を就業場所とした請負派遣の求人増加が目立つ(職業安定所)などの理由から「やや良くなっている」とする回答が多くみられた一方で、余剰人員をかかえている事業所が多い(職業安定所)などの理由から「変わらない」とする回答もみられた。

#### (2) 企業倒産 「件数、負債総額ともに増加」

(前年同期(月)比増減率、単位：%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年8月	9	10
倒産件数	15.6	44.5	24.6	26.8	21.2	2.6	45.9
負債総額	32.8	76.4	2.5	149.7	30.0	177.0	314.0

#### 景気ウォッチャー調査 [合計DI]

	12年5月	6	7	8	9	10
現状判断	-	-	-	-	-	47.6
先行き判断	-	-	-	-	-	48.6

## 南 関 東

### 1. 生産及び企業動向

#### (1) 鉱工業生産指数 「緩やかに増加」

- ・電気機械や一般機械は堅調に推移しており、輸送機械も持ち直しの動きがみられる。

#### (2) 企業動向

##### 景気ウォッチャー調査 [ 企業動向関連 ]

##### < 現状判断理由 >

- ・新規の仕事で増産体制にある（一般機械器具製造業）見積件数が増加している（その他サービス業 [ 情報サービス ]）などの理由から「やや良くなっている」とする回答が多くみられた一方で、現状が目一杯で新たな設備投資の話はない（金融業）などの理由から「変わらない」とする回答もみられた。

### 2. 需要の動向

#### (1) 個人消費 「おおむね横ばい」

##### 大型小売店販売額

(店舗調整済、前年同期(月)比増減率、単位：%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9(P)	12年7月	8	9(P)
大型小売店	4.3	2.8	4.4	5.1	5.4	5.8	4.0
百貨店	2.5	0.3	2.6	2.6	5.2	2.9	1.3
スーパー	6.5	5.6	6.3	7.6	5.6	8.2	9.3

##### 乗用車新規登録・届出台数

(前年同期(月)比増減率、単位：%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年7月	8	9
乗用車新規登録・届出台数	4.2	1.0	4.4	0.6	0.7	8.6	2.9

##### 景気ウォッチャー調査 [ 家計動向関連DI ]

	12年5月	6	7	8	9	10
現状判断	-	-	-	-	-	43.2
先行き判断	-	-	-	-	-	49.3

##### < 現状判断理由 >

- ・客の買物姿勢が慎重である（百貨店、スーパー）受注が伸びない（住宅販売会社）などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、需要が停滞し、低価格競争が激化している（一般レストラン）などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。

#### (2) 住宅建設 「増加傾向」

(前年同期(月)比増減率、単位：%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年7月	8	9
新設住宅着工戸数	5.8	13.9	11.6	1.5	1.5	1.4	7.4

##### < コメント >

- ・持家が減少しているものの、首都圏の堅調なマンション着工に支えられ分譲は増加しており、全体では増加傾向にある。

#### (3) 公共投資 「前年を下回っている」

(前年同期(月)比増減率、単位：%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年8月	9	10
公共工事請負金額	16.3	6.5	12.5	13.8	2.8	10.9	21.7

### 3. 雇用情勢等

#### (1) 雇用情勢 「厳しい状況ながらやや改善」

有効求人倍率及び完全失業率

(単位：倍、%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年7月	8	9
有効求人倍率(季節調整値)	0.43	0.47	0.53	0.58	0.57	0.59	0.60
完全失業率(原数値)	4.5	5.0	5.2	4.9	-	-	-

#### <コメント>

- ・完全失業率は、前年同期(5.3%)を下回ったが依然として高い水準となっている。しかし、有効求人倍率は求人増等から緩やかに上昇している。

#### 景気ウォッチャー調査[雇用関連]

#### <現状判断理由>

- ・派遣契約開始者数が同終了者数を上回っている(人材派遣会社)、IT関連企業からの常用求人数が大幅に伸びている(職業安定所)などの理由から「やや良くなっている」とする回答が多くみられた一方で、販売員を派遣しているメーカーが倒産した(人材派遣会社)などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。

#### (2) 企業倒産 「件数、負債総額ともに増加」

(前年同期(月)比増減率、単位：%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年8月	9	10
倒産件数	1.3	41.6	11.4	13.2	15.1	14.7	9.0
負債総額	44.9	63.3	7.0	163.1	151.7	114.7	2318.4

#### <コメント>

- ・10月は生命保険会社等の倒産により南関東地域の倒産企業の負債総額が過去最大の7兆9,412億円となった。

#### 景気ウォッチャー調査[合計DI]

	12年5月	6	7	8	9	10
現状判断	-	-	-	-	-	48.1
先行き判断	-	-	-	-	-	51.1

## (4) 東 海

東海地域では、企業部門を中心に自律的回復に向けた動きが広がっており、景気は改善が続いている。これは、個人消費はおおむね横ばいの状態にあるものの、鉱工業生産が増加し、設備投資も非製造業を中心に増加しているからである。

～鉱工業生産の水準は8月に過去最高となったが、9月はその反動及び豪雨の影響で減少している～

### 1. 生産及び企業動向

#### (1) 鉱工業生産指数 「増加」 (季節調整値、前期(月)比増減率、単位：%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9(P)	12年7月	8	9(P)
鉱工業生産指数	1.6	0.6	4.0	1.2	1.1	4.1	7.5

(備考)(P)は速報値。

#### <コメント>

- 全体の生産水準は8月に過去最高となったが、9月はその反動及び豪雨の影響で減少している。自動車は国内販売で新型車投入効果により動きがみられることから増加している。電気機械は電子計算機・同関連装置、半導体集積回路が好調なことから増加している。一般機械は金属工作機械が国内の情報関連産業向けを中心に動きがあることから、増加傾向にある。

#### (2) 企業動向 「業況判断は「悪い」超幅が縮小」

##### 企業短期経済観測調査 [業況判断DI] (「良い」-「悪い」回答社数構成比、単位：%ポイント)

調査月	12年3月	6月	9月	12月(予測)
全産業	22	17	11	11
製造業	19	12	7	8
非製造業	26	25	17	17

##### 景気ウォッチャー調査 [企業動向関連]

#### <現状判断理由>

- 貨物量に変化はないが、単価は相変わらず低下し続けている(輸送業)、企業の不動産取引がほとんどない(司法書士)などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、高級車が売れるなど自動車関連は好調(輸送用機械器具製造業)などの理由から「やや良くなっている」とする回答もみられた。

### 2. 需要の動向

#### (1) 個人消費 「おおむね横ばい」

##### 大型小売店販売額 (店舗調整済、前年同期(月)比増減率、単位：%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年7月	8	9
大型小売店	4.5	4.2	7.7	5.9	6.2	5.1	6.3
百貨店	0.8	2.2	6.9	6.6	7.6	7.2	4.3
スーパー	7.2	5.4	8.1	5.5	5.1	4.2	7.4
コンビニエンス・ストア	0.0	0.5	0.4	2.2	4.1	2.2	0.3

#### <コメント>

百貨店：9月は残暑の影響により飲食料品に動きがみられたものの、秋物衣料が不調であり、3月にオープンした大型店の影響や豪雨の影響もあって低調となっている。また10月は昨年の地元プロ野球球団の優勝セールからの反動から低調となっている。なお、店舗調整前では7月 2.4%、8月 1.2%、9月 0.5%となっている。

スーパー：低価格傾向による衣料品の不振等が直近も含め続いている。

##### 乗用車新規登録・届出台数 (前年同期(月)比増減率、単位：%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年7月	8	9
乗用車新規登録・届出台数	2.5	3.5	3.8	3.5	0.4	5.9	5.2

##### 景気ウォッチャー調査 [家計動向関連DI]

	12年5月	6	7	8	9	10
現状判断	57.3	52.8	50.7	52.2	48.9	47.1(47.8)
先行き判断	57.3	57.3	50.0	51.4	52.1	51.0(50.0)

(備考)( )は9月以前との接続値。なお、巻末主要指標(9)の備考を参照のこと。



< 現状判断理由 >

- ・客単価が低い状態が続いている（スーパー、コンビニ等）必要なものを必要な分だけ買って行く傾向が続いている（家電量販店）などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、来客数、客単価ともに減少している（コンビニ）などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。

(2) 設備投資 「12年度計画は前年度実績を上回っている」

企業短期経済観測調査 [ 設備投資 ] ( 9月調査 ) ( 前年度比増減率、単位：％ )

	11年度実績	12年度計画
全産業	11.9	8.9
製造業	21.7	5.2
非製造業	3.4	11.4

(3) 住宅建設 「緩やかに減少」

( 前年同期 ( 月 ) 比増減率、単位：％ )

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年7月	8	9
新設住宅着工戸数	2.0	1.0	2.8	3.6	2.6	0.8	6.9

< コメント >

- ・分譲が前年を上回ったものの、貸家が減少したことから、緩やかな減少傾向にある。

(4) 公共投資 「前年を下回っている」

( 前年同期 ( 月 ) 比増減率、単位：％ )

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年8月	9	10
公共工事請負金額	17.2	4.3	14.7	11.6	12.2	13.7	23.5

3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢 「厳しい状況ながらやや改善」

有効求人倍率及び完全失業率

( 単位：倍、％ )

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年7月	8	9
有効求人倍率(季節調整値)	0.63	0.68	0.74	0.80	0.78	0.80	0.82
完全失業率(原数値)	3.8	4.0	4.1	3.5	-	-	-

< コメント >

- ・完全失業率は、前年同期(4.0%)を下回っているが、依然としてやや高い水準となっている。有効求人倍率は求人増等から緩やかに上昇している。

景気ウォッチャー調査 [ 雇用関連 ]

< 現状判断理由 >

- ・派遣社員の求人が増加し、不足する状況(人材派遣会社) 求人は増加しているが、求職者は減少している(職業安定所)などの理由から「やや良くなっている」とする回答が多くみられた一方で、営業職に対する求人ニーズは相変わらず多いが、全体的な求人件数に大きな変化はない(求人情報誌製作会社)などの理由から「変わらない」とする回答もみられた。

(2) 企業倒産 「件数、負債総額ともに増加」

( 前年同期 ( 月 ) 比増減率、単位：％ )

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年8月	9	10
倒産件数	12.5	37.4	16.4	14.6	1.5	43.0	8.2
負債総額	21.0	3.1	13.7	49.2	15.5	1.3	48.8

景気ウォッチャー調査 [ 合計DI ]

	12年5月	6	7	8	9	10
現状判断	56.6	54.1	53.3	55.7	53.1	49.7(50.8)
先行き判断	58.6	57.9	53.0	55.7	56.3	52.5(51.6)

## (5) 北 陸

北陸地域では、企業部門を中心に自立的回復に向けた動きが継続しており、景気は緩やかな改善が続いている。これは個人消費がおおむね横ばいの状態にあるものの、鉱工業生産が増加傾向にあり、設備投資も製造業を中心に増加しているからである。

～12年度の設備投資計画は製造業を中心に業種・企業規模の広がりを伴いながら一段と増加している～

### 1. 生産及び企業動向

#### (1) 鉱工業生産指数 「増加傾向」 (季節調整値、前期(月)比増減率、単位：%)

	11年10～12月	12年1～3月	4～6	7～9(P)	12年7月	8	9(P)
鉱工業生産指数	2.2	1.6	3.7	1.9	3.7	2.9	3.7

(備考)(P)は速報値。

#### <コメント>

- 電気機械は電子部品が携帯電話用、パソコン用とも好調なことから増加している。一般機械は建設機械が低水準横ばいであるものの、繊維機械がアジア向け、工作機械が自動車関連やIT関連産業等の受注増から、増加傾向にある。
- 繊維は、輸出の増勢が鈍化しており、衣料が輸入品と競合していることから低水準な生産となっている。金属製品はアルミ建材がビル用建材で動きがみられたが、住宅用建材は生産の抑制基調が続いているため、横ばいとなっている。

#### (2) 企業動向 「業況判断は「悪い」超幅が縮小」

##### 企業短期経済観測調査 [業況判断D I] (「良い」-「悪い」回答社数構成比、単位：%ポイント)

調査月	12年3月	6月	9月	12月(予測)
全産業	30	26	24	25
製造業	27	16	17	17
非製造業	31	35	32	32

##### 景気ウォッチャー調査 [企業動向関連]

#### <現状判断理由>

- 売上は伸びず横ばいである(輸送業)。この数か月、相談内容に会社整理、負債の処理など後ろ向きのものが多い(司法書士)などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、受注がやや増えている(電気機械器具製造業)などの理由から「やや良くなっている」とする回答もみられた。

### 2. 需要の動向

#### (1) 個人消費 「おおむね横ばい」

##### 大型小売店販売額 (店舗調整済、前年同期(月)比増減率、単位：%)

	11年10～12月	12年1～3月	4～6	7～9	12年7月	8	9
大型小売店	3.1	2.1	2.4	3.6	3.3	6.3	3.1
百貨店	1.4	1.9	0.9	3.1	3.2	4.8	2.8
スーパー	4.5	2.2	3.3	4.0	3.4	7.0	6.4
コンビニエンス・ストア	-	-	-	-	-	-	-

#### <コメント>

百貨店：催事により飲食料品が増加したことなどから、9月は前年を上回ったものの、低価格傾向による衣料品等の不振は続いている。

スーパー：客数の減少、飲食料品等の値下げによる客単価の低下が直近も含め続いている。

##### 乗用車新規登録・届出台数 (前年同期(月)比増減率、単位：%)

	11年10～12月	12年1～3月	4～6	7～9	12年7月	8	9
乗用車新規登録・届出台数	5.7	0.5	3.2	3.3	1.6	8.8	1.5

##### 景気ウォッチャー調査 [家計動向関連D I]

	12年5月	6	7	8	9	10
現状判断	-	-	-	-	-	37.7
先行き判断	-	-	-	-	-	44.2

(備考)巻末主要指標(9)の備考を参照のこと。

< 現状判断理由 >

- ・今、必要なものだけを買う客が多い（百貨店）受注棟数が変わっていない（住宅販売会社）などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、気温の低下で秋冬物の商品が動いたが、長続きしなかった（百貨店）などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。

(2) 設備投資 「12年度計画は前年度実績を上回っている」

企業短期経済観測調査 [ 設備投資 ] ( 9月調査 ) ( 前年度比増減率、単位：％ )

	11年度実績	12年度計画
全産業	21.4	13.2
製造業	18.5	19.0
非製造業	26.5	2.0

(備考) 電気・ガスを除く。

< コメント >

- ・全産業、製造業は4年振りに非製造業は6年振りに前年度実績を上回っている。

(3) 住宅建設 「緩やかに減少」

( 前年同期 ( 月 ) 比増減率、単位：％ )

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年7月	8	9
新設住宅着工戸数	6.0	5.4	4.3	4.1	0.6	4.1	8.6

< コメント >

- ・貸家等の減少により緩やかに減少している。

(4) 公共投資 「前年を下回っている」

( 前年同期 ( 月 ) 比増減率、単位：％ )

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年8月	9	10
公共工事請負金額	14.6	22.5	4.0	20.2	21.2	24.6	20.7

3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢 「厳しい状況ながらやや改善」

有効求人倍率及び完全失業率

( 単位：倍、％ )

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年7月	8	9
有効求人倍率 ( 季節調整値 )	0.67	0.75	0.77	0.82	0.80	0.83	0.84
完全失業率 ( 原数値 )	3.2	4.0	3.6	3.5	-	-	-

< コメント >

- ・完全失業率は、前年同期 ( 3.2% ) を上回っており、依然としてやや高い水準にある。有効求人倍率は求人増から緩やかに上昇している。

景気ウォッチャー調査 [ 雇用関連 ]

< 現状判断理由 >

- ・サービス業関係での新規出店等、製造業の求人ニーズが増加している ( 求人情報誌製作会社 )、徐々に求人広告が増えている ( 新聞社 [ 求人広告 ] ) などの理由から「やや良くなっている」とする回答が多くみられた一方で、求人広告の掲載件数は横ばいの状態が続いている ( 新聞社 [ 求人広告 ] ) などの理由から「変わらない」とする回答もみられた。

(2) 企業倒産 「件数は増加」

( 前年同期 ( 月 ) 比増減率、単位：％ )

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年8月	9	10
倒産件数	3.2	16.3	34.1	42.3	44.4	48.4	130.8
負債総額	10.8	72.5	7.5	62.7	84.8	6.0	103.3

景気ウォッチャー調査 [ 合計 D I ]

	12年5月	6	7	8	9	10
現状判断	-	-	-	-	-	43.0
先行き判断	-	-	-	-	-	47.3

## (6) 近畿

近畿地域では、企業部門を中心に自律的回復に向けた動きが継続しており、景気は緩やかな改善が続いている。これは、個人消費がやや弱含んでいるものの、鉱工業生産が緩やかに増加し、設備投資も製造業を中心に増加しているからである。

～9月中旬に閉幕した淡路花博は、目標を200万人上回る700万人の入場者が集まり、観光関連産業を中心として地域経済に大きな波及効果をもたらした～

### 1. 生産及び企業動向

#### (1) 鉱工業生産指数 「緩やかに増加」 (季節調整値、前期(月)比増減率、単位：%)

	11年10～12月	12年1～3月	4～6	7～9(P)	12年7月	8	9(P)
鉱工業生産指数	0.0	1.6	1.2	0.7	0.5	1.8	0.3

(備考)(P)は速報値。

#### <コメント>

- 電気機械は、依然として通信機械や電子部品等の増加から好調を継続している。一般機械は、半導体製造装置が引き続き増加している他、設備投資の持ち直しの動きから工作機械等が堅調となっている。鉄鋼は、輸出向けがやや頭打ちとなってきているが、内需は産業機械向けなどで堅調である。一方繊維等の地場産業は、輸入品との競合から不振となっている。

#### (2) 企業動向 「業況判断は「悪い」超幅が縮小」

##### 企業短期経済観測調査 [業況判断DI] (「良い」 - 「悪い」回答社数構成比、単位：%ポイント)

調査月	12年3月	6月	9月	12月(予測)
全産業	27	22	19	12
製造業	23	15	12	4
非製造業	32	28	26	20

##### 景気ウォッチャー調査 [企業動向関連]

#### <現状判断理由>

- 受注件数に変化がない(出版印刷業)、企業の融資案件がまだ活発になっていない(金融業)などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、出荷数量が上向いている(金属製品製造業)などの理由から「やや良くなっている」とする回答もみられた。

### 2. 需要の動向

#### (1) 個人消費 「やや弱含んでいる」

##### 大型小売店販売額 (店舗調整済、前年同期(月)比増減率、単位：%)

	11年10～12月	12年1～3月	4～6	7～9	12年7月	8	9
大型小売店	5.0	3.8	5.4	6.2	5.8	7.1	5.7
百貨店	4.0	1.0	1.2	3.1	4.9	4.3	1.0
スーパー	5.9	6.0	8.6	8.7	6.6	9.1	10.5
コンビニエンス・ストア	1.6	3.1	2.5	0.6	1.5	0.2	3.3

#### <コメント>

百貨店：当初は中元セールスの反動や猛暑から衣料品が振るわず低調であったが、家具・家電の好調や秋物衣料に動きがみられたこと及び一部店舗の増床などから、9月は3か月ぶりに前年を上回った。

スーパー：生鮮食品を中心とする飲食料品の不振に加え、9月は前年のプロ野球優勝セールスの反動減もあった。

##### 乗用車新規登録・届出台数

(前年同期(月)比増減率、単位：%)

	11年10～12月	12年1～3月	4～6	7～9	12年7月	8	9
乗用車新規登録・届出台数	2.5	4.6	3.9	1.3	3.0	1.7	1.5

##### 景気ウォッチャー調査 [家計動向関連DI]

	12年5月	6	7	8	9	10
現状判断	43.4	45.5	48.8	43.0	45.9	41.4(37.9)
先行き判断	53.1	54.1	48.4	48.8	52.0	46.7(44.6)

(備考)( )は9月以前との接続値。なお、巻末主要指標(9)の備考を参照のこと。

< 現状判断理由 >

- ・来客数は増加しているが客単価が低下している（スーパー）、宴会や宿泊の受注に変化がない（レストラン）などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、マンションのモデルルームへの来場者数が減少している（住宅販売会社）などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。

(2) 設備投資 「12年度計画は製造業を中心に前年度実績を上回っている」

企業短期経済観測調査 [ 設備投資 ] ( 9月調査 ) ( 前年度比増減率、単位：%)

	11年度実績	12年度計画
全産業	10.7	6.4 (0.3)
製造業	11.7	14.7 (0.6)
非製造業	9.8	0.8 (0.0)

(備考)( )は前回(6月)調査比修正率。

(3) 住宅建設 「減少」

(前年同期(月)比増減率、単位：%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年7月	8	9
新設住宅着工戸数	5.2	3.9	3.7	6.8	7.6	4.6	21.0

< コメント >

- ・今まで好調であった分譲が減少に転じ、持家、貸家も引き続き減少している。

(4) 公共投資 「このところおおむね前年並み」

(前年同期(月)比増減率、単位：%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年8月	9	10
公共工事請負金額	13.0	13.2	26.1	2.2	6.2	14.4	25.4

3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢 「厳しい状況ながらやや改善」

有効求人倍率及び完全失業率

(単位：倍、%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年7月	8	9
有効求人倍率(季節調整値)	0.40	0.44	0.47	0.50	0.49	0.50	0.52
完全失業率(原数値)	5.4	5.9	5.9	5.8	-	-	-

< コメント >

- ・有効求人倍率は緩やかに改善しつつあり、完全失業率も高水準ながら前年同期(5.9%)と比べ低下している。

景気ウォッチャー調査 [ 雇用関連 ]

< 現状判断理由 >

- ・雇用状況は改善してきたがここ数か月は横ばい(職業安定所)、景気回復時にみられた発注が頭打ちになっている(人材派遣会社)などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、広告件数が上向いている(新聞社[求人広告])などの理由から「やや良くなっている」とする回答もみられた。

(2) 企業倒産 「件数が大幅に増加」

(前年同期(月)比増減率、単位：%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年8月	9	10
倒産件数	0.5	59.0	27.6	24.1	25.2	26.3	19.1
負債総額	27.1	11.0	75.4	134.3	31.8	18.8	13.5

< コメント >

- ・建設業を中心とする中小・零細地場企業の相次ぐ倒産から、件数が大幅に増加している。

景気ウォッチャー調査 [ 合計DI ]

	12年5月	6	7	8	9	10
現状判断	47.1	48.6	48.6	47.5	48.9	46.0(41.8)
先行き判断	54.2	57.1	50.8	51.7	53.3	49.2(46.5)

## (7) 中国

中国地域では、企業部門を中心に自律的回復に向けた動きが継続しており、景気は改善が続いている。これは、個人消費がやや弱含んでいるものの、鉱工業生産が増加傾向にあり、設備投資も製造業を中心に増加しており、また、雇用情勢も厳しい状況ながらやや改善しているからである。

～鳥取県西部地震では、企業の生産活動への影響は大きくないが、農林水産業に大きな被害がでており、観光地ではキャンセルが相次いでいる。また消費マインドの低下を指摘する声もある～

### 1. 生産及び企業動向

#### (1) 鉱工業生産指数 「増加傾向」 (季節調整値、前期(月)比増減率、単位：%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9(P)	12年7月	8	9(P)
鉱工業生産指数	2.6	0.4	6.3	3.4	5.5	6.1	5.1

(備考)(P)は速報値。

#### <コメント>

- ・IT関連の需要が好調であることから、電気機械は高水準な生産が続いている。アジア向け輸出に減速感があるものの、内需に動きがみられることから、鉄鋼は増加しており、化学は底固く推移している。一般機械は、低水準な生産となっている。
- ・自動車は、モデルチェンジによる増加があるものの、ユーロ安による輸出の減少やリコール問題による生産停止などの影響で減少している。

#### (2) 企業動向 「業況判断は「悪い」超幅が横ばい」

##### 企業短期経済観測調査 [業況判断DI] (「良い」-「悪い」回答社数構成比、単位：%ポイント)

調査月	12年3月	6月	9月	12月(予測)
全産業	21	19	19	15
製造業	22	16	13	13
非製造業	21	21	22	16

##### 景気ウォッチャー調査 [企業動向関連]

#### <現状判断理由>

- ・勝ち組と負け組に二極化している(輸送用機械器具製造業)、受注額が低迷している(建設業)などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、残業時間が増えている(金属製品製造業)などの理由から「やや良くなっている」とする回答もみられた。

### 2. 需要の動向

#### (1) 個人消費 「やや弱含んでいる」

##### 大型小売店販売額 (店舗調整済、前年同期(月)比増減率、単位：%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年7月	8	9
大型小売店	2.4	2.4	5.0	4.6	3.4	7.1	3.5
百貨店	0.5	0.7	3.9	4.5	4.5	6.7	2.1
スーパー	4.4	4.5	5.7	4.8	2.6	7.3	4.4
コンビニエンス・ストア	0.2	0.9	1.3	0.9	4.3	0.6	2.4

#### <コメント>

- 百貨店：ブランド小物等が堅調で婦人衣料に動きがみられた。プロ野球優勝セールや9月中旬以降の気温の低下により秋物商戦に有利な状況であったが、消費の底上げにはつながっていない。
- スーパー：主力の飲食料品の不振に加え、ほとんどの商品で前年を下回っている。

##### 乗用車新規登録・届出台数 (前年同期(月)比増減率、単位：%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年7月	8	9
乗用車新規登録・届出台数	2.5	2.7	2.0	1.6	3.9	3.0	2.4

景気ウォッチャー調査 [ 家計動向関連 D I ]

	12年5月	6	7	8	9	10
現状判断	-	-	-	-	-	41.4
先行き判断	-	-	-	-	-	45.7

(備考) 巻末主要指標(9)の備考を参照のこと。

< 現状判断理由 >

- ・低価格志向である(衣料品専門店) 売上が伸びていない(その他専門店[贈答品])などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、鳥取県西部地震により消費マインドが落ち込んでいる(百貨店)などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。

(2) 設備投資 「12年度計画は製造業を中心に前年度実績を上回っている」

企業短期経済観測調査 [ 設備投資 ] (9月調査) (前年度比増減率、単位：%)

	11年度実績	12年度計画
全産業	8.9	3.9 ( 0.9 )
製造業	18.6	16.4 ( 2.2 )
非製造業	0.3	5.6 ( 0.4 )

(備考)( )は前回(6月)調査比修正率。

(3) 住宅建設 「緩やかに減少」

(前年同期(月)比増減率、単位：%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年7月	8	9
新設住宅着工戸数	0.5	6.0	7.6	2.4	7.6	2.6	10.9

< コメント >

- ・足元では持家が持ち直しているものの、貸家、分譲が減少しており、全体で見ると緩やかに減少している。

(4) 公共投資 「前年を下回っている」

(前年同期(月)比増減率、単位：%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年8月	9	10
公共工事請負金額	17.0	0.4	22.8	5.5	1.8	13.0	16.3

3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢 「厳しい状況ながらやや改善」

有効求人倍率及び完全失業率

(単位：倍、%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年7月	8	9
有効求人倍率(季節調整値)	0.63	0.68	0.71	0.73	0.71	0.73	0.75
完全失業率(原数値)	3.7	3.8	4.3	3.9	-	-	-

< コメント >

- ・完全失業率は前年同期(3.6%)を上回っており、やや高い水準にある。有効求人倍率は緩やかに上昇している。

景気ウォッチャー調査 [ 雇用関連 ]

< 現状判断理由 >

- ・企業の採用が活発化している(求人情報誌製作会社) 求人が増加している(職業安定所)などの理由から「やや良くなっている」とする回答が多くみられた一方で、正社員の雇用情勢は厳しい(人材派遣会社)などの理由から「変わらない」とする回答もみられた。

(2) 企業倒産 「件数、負債総額ともに増加」

(前年同期(月)比増減率、単位：%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年8月	9	10
倒産件数	3.8	49.2	34.8	25.8	18.7	1.3	24.1
負債総額	4.8	34.5	34.9	555.6	7.3	48.9	2.6

景気ウォッチャー調査 [ 合計 D I ]

	12年5月	6	7	8	9	10
現状判断	-	-	-	-	-	46.0
先行き判断	-	-	-	-	-	48.0

(8) 四 国

四国地域は、企業部門を中心に自律的回復に向けた動きがわずかにみられるものの、景気は足踏み状態である。これは、鉱工業生産が足踏み状態であり、個人消費はやや弱含んでおり、雇用情勢も厳しい状況にあるからである。

～地元大型テーマパークの休園や、「しまなみ海道」開通効果の一巡による観光業の低迷、また企業倒産の増加等の地域経済への影響が懸念される～

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産指数 「足踏み状態」 (季節調整値、前期(月)比増減率、単位：%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9(P)	12年7月	8	9(P)
鉱工業生産指数	1.8	1.4	2.6	2.4	2.8	2.1	3.6

(備考)(P)は速報値。

<コメント>

- 電気機械は、半導体集積回路、ニッケル水素蓄電池等で高操業が続いているものの、一部磁気ディスク装置やVTRの海外生産シフトがあったことから減少している。化学は堅調な内外需に支えられ多くの品目で高操業が続いている。紙・パルプは、情報機器に関連したマニュアル類の印刷用紙や包装用の段ボール原紙等の需要好調により増加している。一般機械は、機種によりばらつきはあるものの、総じて低調に推移している。その他9月は、金属製品で橋りょうの前月増加した反動減等もあって全体で減少となった。

(2) 企業動向 「業況判断は「悪い」超幅が縮小」

企業短期経済観測調査 [業況判断DI] (「良い」-「悪い」回答社数構成比、単位：%ポイント)

調査月	12年3月	6月	9月	12月(予測)
全産業	23	22	21	18
製造業	24	20	13	14
非製造業	22	23	25	21

景気ウォッチャー調査 [企業動向関連]

<現状判断理由>

- 業種によりまちまちであるが全般的に悪い状態が続いている(金融業) 広告費も抑え気味である(広告代理店)などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられる一方で、出来高よりも多く前倒して入金してほしいとか借金を申し込んでくる下請が2、3社あった(建設業)などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。

2. 需要の動向

(1) 個人消費 「やや弱含んでいる」

大型小売店販売額 (店舗調整済、前年同期(月)比増減率、単位：%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年7月	8	9
大型小売店	1.1	1.9	3.2	4.3	3.3	6.8	2.9
百貨店	1.4	0.3	0.6	3.7	4.9	6.5	1.2
スーパー	2.8	3.3	4.6	4.6	2.1	6.9	4.9
コンビニエンス・ストア	0.7	1.2	3.5	3.1	1.6	2.5	5.4

<コメント>

百貨店：夏場は中元ギフトが法人需要を中心に低迷し、夏物衣料も全体的に低調な動きとなり、9月に入ってから残暑が厳しく秋物衣料の立ち上がりが苦戦したものの、一部店舗で前年同月に改装前の減少があった反動やプロ野球優勝セール盛り上がりなどにより前年増となった。

スーパー：猛暑により夏物商品に動きがみられたものの、衣料品の不振や生鮮品の価格低下により前年割れが続いている。

乗用車新規登録・届出台数 (前年同期(月)比増減率、単位：%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年7月	8	9
乗用車新規登録・届出台数	11.3	1.1	3.1	0.0	1.1	3.1	0.8



景気ウォッチャー調査 [ 家計動向関連D I ]

	12年5月	6	7	8	9	10
現状判断	-	-	-	-	-	37.3
先行き判断	-	-	-	-	-	42.2

(備考) 巻末主要指標(9)の備考を参照のこと。

< 現状判断理由 >

- ・客単価の伸び率が縮小している(家電量販店)、購入する商品の数が少なくなっており、スーツなどは2着で割安になっても1着しか買わない(衣料品専門店)などの理由から「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた一方で、商品単価が大幅に低下しており、前年を割り込んでいる(百貨店)などの理由から「変わらない」とする回答もみられた。

(2) 設備投資 「12年度計画は製造業で前年度実績を上回り、全産業では前年度実績を下回っている」  
企業短期経済観測調査 [ 設備投資 ] (9月調査) (前年度比増減率、単位：%)

	11年度実績	12年度計画
全産業	9.1	4.5
製造業	3.0	2.3
非製造業	14.4	8.0

(3) 住宅建設 「減少」 (前年同期(月)比増減率、単位：%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年7月	8	9
新設住宅着工戸数	5.4	9.1	7.2	3.1	2.0	21.5	11.3

< コメント >

- ・9月は持家、貸家の着工の集中等から増加となったが、均してみると全体として減少基調は変わらない。

(4) 公共投資 「前年を下回っている」 (前年同期(月)比増減率、単位：%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年8月	9	10
公共工事請負金額	22.2	7.7	14.4	12.3	0.8	18.9	17.4

3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢 「有効求人倍率は上昇しているが厳しい状況」

有効求人倍率及び完全失業率 (単位：倍、%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年7月	8	9
有効求人倍率(季節調整値)	0.60	0.63	0.66	0.67	0.68	0.66	0.67
完全失業率(原数値)	3.6	4.1	4.1	4.7	-	-	-

< コメント >

- ・有効求人倍率は求人増から緩やかに上昇しているが、完全失業率は前年同期(4.6%)を上回る高水準となり厳しい状況にある。

景気ウォッチャー調査 [ 雇用関連 ]

< 現状判断理由 >

- ・新卒は手控えられているが、中途採用は企業の関心が強い(求人情報誌製作会社) 事業閉鎖、倒産などによる離職が相変わらず多い(職業安定所)などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、製造関係を中心に求人の申込が増えている(職業安定所)などの理由から「やや良くなっている」とする回答がみられた。

(2) 企業倒産 「件数、負債総額ともに増加」 (前年同期(月)比増減率、単位：%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年8月	9	10
倒産件数	0.8	2.6	19.5	14.8	22.7	0.0	87.5
負債総額	15.0	68.9	27.6	438.5	189.3	86.8	234.2

景気ウォッチャー調査 [ 合計D I ]

	12年5月	6	7	8	9	10
現状判断	-	-	-	-	-	39.9
先行き判断	-	-	-	-	-	44.1

## (9)九州

九州地域では、企業部門を中心に自律的回復に向けた動きが広がっており、景気は改善が続いている。これは、個人消費はおおむね横ばいの状態にあるものの、鉱工業生産が引き続き増加傾向にあり、設備投資も製造業を中心に増加しているからである。

～地元球団の優勝セールなどによる消費の押し上げ効果はみられるものの、企業倒産の増加や、北九州市の大手百貨店2店舗が年内に閉店を予定していることなどの地域経済に与える影響が懸念される～

### 1.生産及び企業動向

#### (1) 鉱工業生産指数 「増加傾向」 (季節調整値、前期(月)比増減率、単位：%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9(P)	12年7月	8	9(P)
鉱工業生産指数	2.8	1.8	1.0	1.3	0.8	4.9	4.5

(備考)(P)は速報値。

#### <コメント>

- ・携帯電話やパソコンなどの好調なIT関連需要にけん引されて、電気機械ではICが金額、数量ともに過去最高を更新して前年を大幅に上回っており、窯業・土石ではファインセラミックスの増加が続いている。
- ・自動車は輸出向けが鈍化しているものの、新型車投入により増加傾向にある。
- ・化学はアジア向け輸出を中心に増加している。鉄鋼は足元やや減少の動きとなっている。

#### (2) 企業動向 「業況判断は「悪い」超幅が横ばい」

##### 企業短期経済観測調査 [業況判断DI] (「良い」-「悪い」回答社数構成比、単位：%ポイント)

調査月	12年3月	6月	9月	12月(予測)
全産業	17	14	14	10
製造業	12	6	5	4
非製造業	19	19	19	13

##### 景気ウォッチャー調査 [企業動向関連]

#### <現状判断理由>

- ・設備投資や増加運転資金等の前向きな情報が乏しい(金融業)、年末年始用の需要に対する大手メーカーの動きが今年は鈍い(農林水産業)などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、受注量も以前と変わらず好調であり、半年先まで受注が進んでいる(一般機械器具製造業)などの理由から「やや良くなっている」とする回答もみられた。

### 2.需要の動向

#### (1) 個人消費 「おおむね横ばい」

##### 大型小売店販売額 (店舗調整済、前年同期(月)比増減率、単位：%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年7月	8	9
大型小売店	1.4	1.5	4.2	4.9	2.6	6.1	6.5
百貨店	1.6	0.3	3.6	4.1	4.1	6.4	1.6
スーパー	1.3	2.8	4.6	5.5	1.4	6.0	9.6
コンビニエンス・ストア	0.3	0.5	1.4	0.5	3.5	0.4	2.2

#### <コメント>

百貨店：8月は中元ギフトの早期受注の反動や法人需要の低迷、猛暑による秋物衣料の不振から減少幅が拡大したものの、9月には下旬の気温の低下により秋物衣料に動きがみられたことや、プロ野球優勝セールの効果もあって減少幅は縮小した。10月に入ってから地元球団のリーグ優勝、日本シリーズ応援セールによる盛り上がりが見られている。

スーパー：夏場は猛暑によりビールなどの飲食物品や夏物衣料に動きはあったものの、秋口には残暑により秋物衣料が伸び悩んだ。10月に入ってから地元球団のリーグ優勝、日本シリーズ応援セールによる盛り上がりはみられるものの、生鮮品や衣料品の価格低下等により増加基調には至っていない。

## 乗用車新規登録・届出台数

(前年同期(月)比増減率、単位：%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年7月	8	9
乗用車新規登録・届出台数	2.5	4.7	3.8	0.9	0.0	4.0	0.2

## 景気ウォッチャー調査 [ 家計動向関連 D I ]

	12年5月	6	7	8	9	10
現状判断	48.5	46.7	54.0	48.5	43.2	43.9(43.5)
先行き判断	51.5	52.9	51.5	45.8	50.4	45.4(46.4)

(備考)( )は9月以前との接続値。なお、巻末主要指標(9)の備考を参照のこと。

&lt;現状判断理由&gt;

- ・気温が高く秋冬物商品の売上の伸びが良くない(百貨店、スーパー)、パソコンの新製品が出たにも関わらず問い合わせが少なかった(家電量販店)などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、客単価が低下している(百貨店、スーパー)などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。

## (2) 設備投資 「12年度計画は前年度実績を上回っている」

## 企業短期経済観測調査 [ 設備投資 ] (9月調査)

(前年度比増減率、単位：%)

	11年度実績	12年度計画
全産業	1.4	6.2( 1.2)
製造業	13.4	12.7( 3.0)
非製造業	3.0	3.4( 0.4)

(備考)( )は前回(6月)調査比修正率。

&lt;コメント&gt;

- ・半導体関連で新たに大手メーカーが熊本県に新工場建設を決定するなど、製造業は電気機械や自動車を中心に前年度を更に上回る見込みとなっている。

## (3) 住宅建設 「減少」

(前年同期(月)比増減率、単位：%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年7月	8	9
新設住宅着工戸数	11.8	8.1	4.5	4.7	6.6	5.7	2.0

&lt;コメント&gt;

- ・分譲は増加が続いているものの、持家、貸家の減少から、全体では減少が続いている。

## (4) 公共投資 「前年を下回っている」

(前年同期(月)比増減率、単位：%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年8月	9	10
公共工事請負金額	7.1	6.5	9.5	17.9	11.5	25.1	17.9

## 3. 雇用情勢等

## (1) 雇用情勢 「厳しい状況ながらやや改善」

## 有効求人倍率及び完全失業率

(単位：倍、%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年7月	8	9
有効求人倍率(季節調整値)	0.42	0.45	0.47	0.49	0.48	0.49	0.49
完全失業率(原数値)	4.9	5.7	5.4	5.3	-	-	-

&lt;コメント&gt;

- ・完全失業率は前年同期(4.9%)を上回り高い水準にあるものの、有効求人倍率は求人増から緩やかに上昇している。

## 景気ウォッチャー調査 [ 雇用関連 ]

&lt;現状判断理由&gt;

- ・求人数は増加傾向にあるものの、人員整理や事業廃止がまだまだ発生している(職業安定所)、工場関係の受注も一巡して、一進一退という感じである(新聞社[求人広告])などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、新規求人数が順調に伸びており、特にIC関連が好調(職業安定所)などの理由から「やや良くなっている」とする回答がみられた。

( 2 ) 企業倒産 「件数、負債総額ともに増加」 (前年同期(月)比増減率、単位：%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年8月	9	10
倒産件数	16.9	43.9	31.3	13.7	20.6	1.3	5.1
負債総額	42.2	92.5	267.8	109.0	55.7	26.5	85.9

<コメント>

- ・ 中小、零細企業の倒産が増加傾向にある。

景気ウォッチャー調査 [合計DI]

	12年5月	6	7	8	9	10
現状判断	53.2	50.0	54.5	49.2	43.1	46.4(44.8)
先行き判断	52.7	52.9	51.6	49.5	49.7	47.2(48.2)

(10) 沖 縄

沖縄地域では、総じてみれば景気は回復している。これは、主力の観光が高水準で推移し、個人消費は堅調であり、設備投資も増加しているからである。

～九州・沖縄サミットの開催、台風の影響によって観光客数が一時的に減少したが、マイナス影響を脱して再び高水準で推移している～

1. 観光及び企業動向

(1) 観光 「前年を若干下回るが高水準で推移」 (前年同期(月)比増減率、単位：%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9(P)	12年7月	8	9(P)
入域観光客数	14.8	6.1	1.8	8.0	22.8	4.9	5.2

(備考)(P)は速報値(以下同様)。

<コメント>

・入域観光客数は、一部航空路線の減便や、九州・沖縄サミット開催、台風の影響等で7、8月は前年を下回っているが、9月は前年を上回り9月単月で過去最高となった。主要ホテルの客室稼働率は、那覇市内ホテル、リゾートホテルとも前年を下回っているが、宴会、婚礼が好調で9月の売上高は前年を上回った。

(2) 企業動向 「業況判断は「良い」超で推移」

企業短期経済観測調査 [業況判断DI] (「良い」-「悪い」回答社数構成比、単位：%ポイント)

調査月	12年3月	6月	9月	12月(予測)
全産業	14	7	1	10
製造業	9	0	5	24
非製造業	19	9	2	7

景気ウォッチャー調査 [企業動向関連]

<現状判断理由>

・サミットが終わり良くなった(輸送業)などの理由から「やや良くなった」とする回答が多くみられた一方で、物件の売行きは横ばいである(不動産業)などの理由から「変わらない」とする回答もみられた。

2. 需要の動向

(1) 個人消費 「堅調」

百貨店販売額、スーパーの売上高、家電卸出荷額 (前年同期(月)比増減率、単位：%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9(P)	7	8	9(P)
百貨店	8.8	7.4	7.3	7.4	7.8	4.4	10.4
スーパー	-	-	-	-	0.4	2.3	3.8
家電卸出荷額	14.5	13.0	7.0	1.3	2.5	5.8	1.3

(備考)百貨店販売額、家電出荷額は、沖縄銀行調べ。スーパー売上高は日本銀行那覇支店調べ。百貨店販売額、スーパー売上高は店舗調整済。

<コメント>

百貨店：プロ野球優勝セールの効果、気温低下の影響による秋物を中心とした衣料品等が堅調なことに支えられ、前年を上回っている。

スーパー：客単価の低下などから既存店は低調であるが、全店ベースでは引き続き前年を上回っており、総じてみれば底固く推移している。

家電：エアコン、洗濯機などが前年を下回っているものの、パソコン、携帯電話などが高水準を維持している。

乗用車新規登録・届出台数 (前年同期(月)比増減率、単位：%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年7月	8	9
乗用車新規登録・届出台数	3.1	20.7	8.9	1.3	23.4	27.8	13.1

<コメント>

・軽乗用車が引き続き大幅に増加しているほか、普通、小型車も堅調に推移し全体では増加傾向にある。

景気ウォッチャー調査 [家計動向関連DI]

	12年5月	6	7	8	9	10
現状判断	-	-	-	-	-	43.8
先行き判断	-	-	-	-	-	56.3

(備考)巻末主要指標(9)の備考を参照のこと。

<現状判断理由>

- ・低価格化している（コンビニ）などの理由から「変わらない」とする回答が多くみられた一方で、サミットの効果がみられない（観光型ホテル）などの理由から「やや悪くなっている」とする回答もみられた。

(2) 設備投資 「12年度計画は前年度実績を上回っている」

企業短期経済観測調査 [ 設備投資 ] ( 9月調査 ) ( 前年度比増減率、単位：% )

	11年度実績	12年度計画
全産業	7.0	2.1 ( 2.3 )
製造業	8.8	11.2 ( 12.4 )
非製造業	6.7	0.5 ( 4.7 )

(備考) 石油、電力を除く。( )は前回(6月)調査比修正率。

<コメント>

- ・大型小売の新規出店や増床等を中心に、前年度を上回る計画となっている。

(3) 住宅建設 「減少」

(前年同期(月)比増減率、単位：%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年7月	8	9
新設住宅着工戸数	20.3	14.6	1.9	23.1	9.4	24.4	29.7

<コメント>

- ・持家の落ち込みが大きく、全体では減少している。

(4) 公共投資 「前年を下回っている」

(前年同期(月)比増減率、単位：%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年8月	9	10
公共工事請負金額	6.4	8.3	0.8	18.5	27.5	5.9	1.5

<コメント>

- ・九州・沖縄サミット関連工事完了の影響により前年を下回っている。

### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢 「厳しい状況ながらやや改善」

有効求人倍率及び完全失業率

(単位：倍、%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年7月	8	9
有効求人倍率(季節調整値)	0.23	0.27	0.29	0.28	0.28	0.28	0.29
完全失業率(原数値)	8.6	6.9	7.9	8.2	7.9	8.3	8.4

(備考) 完全失業率は沖縄県調べ。四半期の数字は毎月の公表資料をもとに求めたもの。

<コメント>

- ・完全失業率は7~9月は前年同期(8.5%)を下回っており、有効求人倍率、新規求人倍率ともに9月は前月より上昇している。

景気ウォッチャー調査 [ 雇用関連 ]

<現状判断理由>

- ・将来に対する雇用の動向がはっきりしない(職業安定所)などの理由から「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた一方で、サミットの時期に比べると良い(求人情報誌製作会社)などの理由から「やや良くなっている」とする回答もみられた。

(2) 企業倒産 「件数は増加」

(前年同期(月)比増減率、単位：%)

	11年10~12月	12年1~3月	4~6	7~9	12年8月	9	10
倒産件数	7.7	115.4	157.1	95.0	85.7	142.9	12.5
負債金額	257.6	350.4	68.4	71.2	87.7	20.3	65.6

景気ウォッチャー調査 [ 合計DI ]

	12年5月	6	7	8	9	10
現状判断	-	-	-	-	-	45.8
先行き判断	-	-	-	-	-	57.3

### 地域経済動向における各地域の景況の推移

	11年 8月	10月	12月	12年 2月	4月	8月	11月
北海道	このところやや改善	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	足踏み状態	足踏み状態
東北	このところ改善	改善が続いている	改善が続いている	改善が続いている	改善が続いている	改善が続いている	改善が続いている
関東	下げ止まり、おおむね横ばい	このところやや改善	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている
(北関東)	このところやや改善	このところやや改善	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている
(南関東)	下げ止まり、おおむね横ばい	このところやや改善	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている
東海	下げ止まり、おおむね横ばい	このところやや改善	緩やかな改善が続いている	改善が続いている	改善が続いている	改善が続いている	改善が続いている
北陸	このところやや改善	このところやや改善	このところやや改善	このところやや改善	このところやや改善	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている
近畿	下げ止まりつつある	このところやや改善	このところやや改善	このところやや改善	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている
中国	このところやや改善	緩やかな改善が続いている	改善が続いている	改善の動きが強まっている	改善の動きが強まっている	改善の動きが強まっている	改善が続いている
四国	下げ止まり、おおむね横ばい	このところやや改善	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	足踏み状態
九州	下げ止まり、おおむね横ばい	このところやや改善	緩やかな改善が続いている	緩やかな改善が続いている	改善が続いている	改善が続いている	改善が続いている
沖縄	回復傾向にある	回復傾向にある	回復傾向にある	回復傾向にある	回復している	回復している	回復している